

ウオッチング 多摩ニュース

第85号

2018年1月25日
ウオッチング多摩の会

三大公共施設に 市民コンセンサスを!

声高に叫ばれる少子高齢化社会、それは既に目の前にある。将来の不安に備え、いま何を為し、如何にすべきかが問われている。

市長はかく言う。多摩市には身の丈以上の公共施設が多く、今後財政負担が大きくなる子どもたちの将来にこのツケを残してはならない。だから公共施設の見直しが必要だ。この見直しは当初納得のいくものだったが、現状どうだろう。80億円ありきのパルテノン多摩改修、建設ありきの新中央図書館論議への市民参加と、見直しから離れた道を歩いているのが実態だ。

パルテノン多摩、中央図書館、新市庁舎の改修・建設に将来ビジョンを!

市長は「まちのことはまちに住む人が決めるまちづくりに住む人が決めるまちづくりに」を標榜しているが、施設の方向性を決めてから市民参加という手続きは、論議の混乱と場当たりの方針の決定という逆効果を醸成している。今後施設はどうあるべきかを聞く市民参加手続きを優先しなかったツケである。施設の基本を示してからでは、論議がその枠内での「利用」に限定され、将来の姿を描きにくくなる。

公共施設見直しの最中に

図書館新設計画が浮上!

見直し方針の一環として、現存する7図書館のうち地域4館(聖ヶ丘、豊ヶ丘、唐木田、東寺方)はなくす方向を示していたが、変貌しつつある地域住民の強い要望に応じ、当面は存続し立ち止まって検討することになった。ところが突如、見直しに逆行する80億円パルテノン多摩改修計画を提案したのである。この市長案に対し議会は立ち止まって市民と共に考えようと議決した。これを受け、市長はさらに検討を進めることになっていったはずだった。

だがこの検討中に中央図書館建設計画を進め、桜美林大学アカデミーヒルズのプール跡地と暫定図書館本館の旧西落合中学校とで土地交換を行い、そこに中央図書館を建設する案を議会に提出した。

議会は中央図書館機能をパルテノン多摩の中に合築する案、あるいはその並びに併設する案を検討していたが、図書館問題とパルテノン計画は切り離して検討することとし、桜美林大学のプール跡地での図書館建設を否決した。

パルテノン多摩は老朽化が進み、改修は待たなしとの状況判断から、市長は平成30年11月末日をもって閉館と決定し、議会もこれに同意した。この日程から、パルテノン改修計画を進めるための基本計画策定予算計上がタイムリミットになり、議会は昨年12月予算案を可決した。

一方、土地交換が否決された図書館建設では、市長が急遽中央公園内パルテノン多摩並びの一角に場所を変え、38億円建設案を提示した。しかもこの案と議会検討中の案の二者択一の決定を議会に迫った。議会は、これに呼応しパルテノン予算と併せて中央図書館基本計画予算を12月議会で議決。

中央図書館建設案はこれまで教育委員会が主導し、策定委員会の答申を踏まえて方向

性を示していた。ところが、議会は当初案の建設場所が不適切とし、新図書館の建設場所の提案をしていた。このこともあり市長は突如、建設場所案の二者択一（パルテノン西駐車場）の議案案（上記行政案）で決定することへ急展開した。

議会は、この案が市民に唐突と受け止められるという懸念から「市民意見を聞く会」を1月10日に行った。案の定、集まった市民は判断材料不足、説明不十分のため、その会場での判断は不可能といった声もあり、全く消化不良のまま終わってしまった。1月17日に議会は採決の予定だったが、何故か採決は1月25日に延期されている。

パルテノン、図書館、新市庁舎を 市民が有効に活用できる場に！

多摩市は、パルテノン多摩改修、中央図書館建設、次には市庁舎建設と、大公共施設をどうするか重要な局面にある。長期的、全市的に取り組まなければ、市長が当初指摘のように子どもたちがその付けを背負うことになるのは明白だ。現に30数年前に建てたパルテノン多摩の重荷に直面している。

現在全国的に公共施設の縮めかたが検討され、新設ストロップが5割といわれる。高度

成長期に作られたインフラの老朽化が進む中、財政難で維持費もままならず取り壊す自治体も出始めているとの報もある。

多摩市でもパルテノン、コミセン、図書館など未決定の課題が顕在化しつつある。これまで市長はことあるごとに財政的心配はないと説明会などで言い切るが、その根拠の説明は全くない。多摩市の高齢化速度は日本一であり、少子高齢化により歳入減の財政が訪れることは火を見るより明らかである。「老人による、老人の為の、老人の政治」と揶揄されるシルバーデモクラシー年代こそ、30年40年後の子どもたちへの責任を果たさなければならぬ。そのためいま決断しなければならぬのが3大公共施設である。

パルテノン多摩

30年先を見てその機能と運用を踏まえ、これから進む市民参画で作成する基本計画案は可逆的なものとする。これまでの検討過程の質疑で行政側は運用面などで後戻りして決めることはあり得ると答弁している。

中央図書館

今ある6館の充実を図り、その上で今後あるべき中央図書館機能を持つ施設とする。新館38億円のハード投資の前に、既存の地域館を生かす資源、特に人的ソフト（司書などヒューマンウェアなどに長じた人）に投資を

優先をすべき。若者はスマホを操り、リファレンス、選書等、求める機能は大きく変化しつつある。AI、IoTなどを活用し、ハードで賄えない人的充実こそ、多摩市が誇れる先駆的「知の創造図書館」である。中央公園に聳え立つビルが求められるのではない。

ますます高齢化する市民は、立派な新中央図書館に行きたくてもその移動の困難性が待ち受け、地域館に頼らざるを得ない。

新市庁舎

10年後に予定される新市庁舎建設も実は目前である。幸い市民の意見を反映してくれた議会によって、市民は立ち止まってパルテノン改修・中央図書館を考える時間を持てた。これは、これからの多摩市にとって大きなアドヴァンテージとなる。三大公共施設機能を、人口減、歳入減、インフラ寿命到来の再整備など長期的展望を踏まえ、新市庁舎建設を検討しなくてはならない。

今このまちに住む私たちにとって、住み続けたいまちになるのか、はたまた逃げ出したいまちになるのか、それは将来の多摩市を描くリーダーの双肩にかかっている。幸いこの時期にそのリーダーを自分たち一人一人の意思で決める市長選挙が4月に予定されている。賢明な市民の責任ある意思表示を示なくてはならない。

（文責：神津）

市民が自ら関心をもち、

決断すること

広報誌に掲載

菊池克行

ちようど二カ月前、昨年11月中旬のことだ。自宅のポストにチラシが投げ込まれた。「公共施設の見直しと将来像」の表題。その下に「特集」多摩センターの魅力発信基地「パルテノン多摩が目指すもの」とある。「みんな考えてよう！」の吹き出し。ウン? 「多摩市政情報誌V01・5」の記載を見ても分かった。80億円近くのおカネを投入する計画に賛否両論が巻き起っている。パルテノン多摩(以下パル多摩)改修に関する多摩市の説明資料。今更何だ、とページをめくると、首都大学東京・松井望教授と阿倍裕行市長の対談特集になっている。

パル多摩を改修したい市の配布資料だからどうせ市側に都合のいいことばかり書かれているのだろう。と思いつつ読むと、松井教授は「改修する費用とともに改修後の運営費用」の提示が必要だと指摘している。さらに、「意見が分かれる場合には、

市民14万人全員が
ウォッチャーであり
サポーター!

選挙や住民投票で争点化をして住民の判断を求める場合があります」。いいこと言うじやんと予断を抱いたことに少々反省。そして発言の最後がなぜか太文字になっているのだが「全ての市民が自ら関心をもち、決断することが期待されます」

なるほど、私たち多摩市民は「決断」を求められているのか。市長選挙は今年四月に予定されている。すでに出馬を表明している阿倍市長の頭の中にも、市民への決断を迫るものがあった、今回の情報誌かもしれない。

市民に決断を迫り

肝心の情報は出さない

しかし、待てよ。松井教授が指摘する改修後の運営費用に付いて、この情報誌には具体的な説明は無い。パル多摩の運営には市から毎年約4億円のおカネが拠出されている。税金ですよ。これはどうなるのか。

また、改修に当たって、複合文化施設パル多摩の“ウリ”の一つになっている、百年前に作られたオルゴール、大きな自動演奏楽器は処分する考えだ。この点も情報誌には書かれていない。麻雀じやあるまいし、ダマテンで改修を押し進めるってこと?

以前、東京都職員だった建築士の友人にも

尋ねてみた。「パル多摩のような公共施設の改修費用は概ね新築時建設費(80億円)の半額が基準。新築に掛かった費用とほぼ同額の改修なんてあり得ない。誰かにボラれてるんじゃないの」と返事が返ってきた。コトの真偽は「自ら関心をもち」と要求されている私たち市民が調べ、判断するしかない。

「知らなかった」は後の祭り

ところで、この情報誌はどうやって、どのくらい配られたのか。多摩市に尋ねてみた。「約七万五百部を全戸配布しました。配達コストは一件六・九七円でした」(多摩市企画政策部)。この費用も当然、税金。ちなみに製作費、印刷費、用紙代は含まれていない。多摩市民のみなさん、この政策情報誌をご覧になりましたか。チラシと勘違いして読まずに捨てちゃったりしていませんか。知らなかった、は後の祭り。自己責任といわれますよ!!



「知の地域創造」ビジョン

花谷修一

議会ではパルテノン多摩の改修はもちろん、本館図書館の移築問題についても随分長いこと議論してきた。私には迷走していると思えない。

建てることを前提に、箱をどこに置くのかだけの矮小化した議論に終始しているのが原因のように思う。

議論の細部は、どうしてもAさんが良ければBさんには都合が悪い、となりがちである。だが、時代の底流を流れるものは何か、社会の動向は何かをしつかり捉えて理念から説き起こせば、AさんとBさんの共通項が自ずと顕れ、進むべき道が見えてくるというものである。

この仕事こそが政治の仕事というものであろうに！ この作業がなく、腑に落ちないまま議論に終止符が打たれるのでは一般市民のにとっては実に嘆かわしい。

「知の地域創造」とは

ここに「知の地域創造」という言葉がある。「多摩市立図書館本館再構築基本構想」の中

に理念として謳われている言葉である。

折角「知の地域創造」という立派な理念を揚げて答申させておきながら、全くこの理念に立ち返っての議論が聞かれない。

その名の通り図書館本館再構築をするために取ってつけたような言葉ではあるが、その言葉自身はこれからの多摩市にとって真摯に考えてみる価値がある。

この言葉はこのまま理解する。散在している「知」を「地域」という枠で再結集させ新たな価値として「創造」し地域創生に資するのみならず、これを担う者自身が再び輝くことである。

結果として市内から多くの情報が発信され、小さい事業を営む人が増え、活気に満ちた街が創出されることである。

市や議会でこの理念を実現するための構想力がないのであれば、我々市民が構想して届けるしかない。

ここでは紙面の関係上、掲載できないが、私の案は「知の地域創造」ビジョンである。

<http://xview.moo.jp/wp01/archives/562>

もし賛同していただければ、その旨を表明(いいね)していただき、コメントも頂戴したい。



またFBページ(フェイスブックページ)「知の地域創造を考える」

<https://www.facebook.com/createtama/>

を開設する。

ぜひ皆様の意見、案を持ち寄り、市ならびに議会に届けようではありませんか！



入会申込書

氏名
住所
電話・FAX
メールアドレス

■会費・カンパ振込先■

みずほ銀行多摩センター支店 1197246
「多摩市議会ウオッチングの会」

■申し込み■

「ウオッチング多摩」の会 代表 神津幸夫
〒206-0034 多摩市鶴牧 3-14-2-102 042-372-9496
HP: <http://watching-tama.com/>

★入会金は必要ありませんが、会報発行等の活動維持のために年会費 2000 円を頂いております。